

第1回周南市地域とともにある学校づくり推進協議会 会議要旨

開催日時：令和4年9月26日（月） 18時30～20：00

開催場所：周南市役所 本庁舎 多目的室

参加者：委員21名（欠席1名）、オブザーバー1名

1 開会行事

主催者あいさつ（周南市教育委員会学校教育課長）

～課長挨拶～

周南市地域とともにある学校づくり推進協議会長あいさつ

～周南公立大学 地域共創センター センター長 立部文崇 様～

2 学校教育課所管説明

(1) 周南市地域とともにある学校づくり推進協議会設置要綱の改正

委員の構成等についての改正案を説明。

(2) 周南市地域連携教委育の推進方向及び令和4年度アクションプラン

令和4年度からの新たな推進方向について説明。

併せて令和4年度の教職員や児童・生徒、地域住民、保護者等が担うアクションプランを説明。

(4) コミュニティ・スクールに関するアンケート調査結果

児童・生徒（小6、中3）の回答結果について報告、説明。

(5) 地域連携教育における現状と課題

1学期末における学校評価回答結果による地域連携教育における現状と課題について説明。

(6) グループ協議題の説明

3 グループ協議・発表

「地域とともにある学校づくりの推進・充実に向けて、それぞれの立場でどのような取組や関わり方等ができるか」

- ・子どもを中心に据えて、子どもの学びをどう充実されるかを考える。
そのために、学校、保護者、地域社会が、行政がどう関われるかを考える。
- ・周りの大人だけで考え、全てお膳立てして子どもに提供するのではなく、子どもの願いを聞き、子どもと一緒に考えることが大切。
- ・子どもを育てるために子どもに考えさせないのは意味がない。
- ・目的の中に「地域の活性化」を入れるから、それぞれの大人の思惑が働く。
「地域の活性化」はあくまで副産物としてとらえるべき。
- ・地域をまとめるのはあくまでも学校。
- ・地域が学校に関わるのに抵抗がある。それは地域が勝手に意識しているもの。

学校から協力要請があると入りやすい。

- ・コロナによって行事がなくなり、地域の方は変わらないが教員や自動・生徒は変わっていく中で、コロナ明けで同じような行事を立ち上げることができるのか疑問。新しいものを作り上げる方が現実的ではないか。
- ・児童生徒に行事の企画をしてもらっても。
- ・市と学校の間でうまくつないでくれるつなぎ手のような存在や場所があればよい。この授業や行事では、これが利用できると提案してくれるような存在や場所など。

4 講評：地域連携教育エキスパート 木本 育夫 様

5 閉会行事

周南市地域とともにある学校づくり推進協議会長あいさつ

～周南公立大学 地域共創センター センター長 立部文崇 様～